

# 健診センターだより～Vol.3

## おしえて！おちぎ市 第3回 Q&A

子宮頸がんのこと



越智 有美（おち・ゆみ）  
つくば市出身、信州大学医学部卒。日本産科婦人科学会認定専門医・指導医。日本産科婦人科学会、日本産科婦人科内視鏡学会所属。当院女性診療科科长。

## 20～30代女性のファースト



出勤途中、スマホで「子宮頸がん患者が増えている」とのニュースを見ました。出産以降は健康そのものですが、少し気になるので教えてください。

（つくばみらい市、44歳女性、のび太のママはタマコ）

子宮頸がんについての新聞記事を読みましたが、趣味のフラダンス仲間に聞いたら「アタタ、それ若い人の病気よ」とのこと。本当に関係ないのでしょうか？  
（常総市、70歳、ラーメン人生）



子宮頸がんは、子宮の入口付近の子宮頸部にできるがん病変」と共に、特に20代後半から40代で増加傾向にあります。日本では年間約1万5000人が罹り、約3500人が命を落とす怖い病気です、場合によっては初期段階で子宮を全摘出することもあります。原因は誰もが感染するHPV（発がん性ヒトパピローマウイルス）なのですが、まれに感染した細胞の一部が数年～数十年かけてゆっくりとがん

んに進行します。ただ、厄介なことに初期症状はほとんどありません。若い人は婦人科を受診すること自体ハードルが高いですが、生理以外の不正出血やおりもの異常、生理不順などの症状がある場合は早急な受診が大切です。

また、子宮頸がんは決して「若い人だけの病気」ではありません。中高年の方で「年齢的に更年期かな」くらいの認識で放っておく人が見受けられますが、これは大きな間違い。子宮がん健診は「いくつになっても」受けてください。



子宮がん健診診察室の様子



## 子宮がん健診

子宮頸部細胞診

医師が膣鏡という金属の器械を膣に入れ子宮の入口を見ながら専用のブラシを使って細胞を採取、子宮頸がんや前がん病変の有無を検査します。出産や性行為経験のない方には、その人に合った膣鏡を使用しますのでご安心ください。

内診と経膣超音波※

外陰部や膣壁、子宮口の異常を視診で確認します。膣内と腹壁から両手で挟むように触診し子宮の大きさや可動性の良否、卵巣の腫れを確認します。膣に超音波の細かい器械を入れ、より小さい病変を見つけることもできます。

※オプション検査となります。

各種健診・人間ドックのお申し込みはコチラ！



申し込み・お問い合わせ

☎029 (836) 1983

筑波学園病院健診センター

（平日 13:00～17:00、土曜 8:30～12:00）

kenshin@gakuenhospital.or.jp